

## Sol Gabetta

## チエロの新星！ソル・ガベッタ

## メニューイン音楽祭でも絶賛、10月に再来日

新人が注目を集め始めると、賛否両論飛び交うものである。しかし、誰からも「素晴らしい」と絶賛する声しか聞こえないチエロ奏者がある。ソル・ガベッタである。舞台上で演奏する彼女の姿からは音楽の喜びが溢れ出ている。10月、そして11月の来日の前にメニューイン音楽祭に参加していた彼女へのインタヴューを通して、その輝きをひと足早くお届けしたい。

「フランス生まれでロシア人の母はピアノリスト、兄はヴァイオリニストなので、私も3歳の時、兄と同じ楽器に触れ始め、4歳から鈴木メソッドで習いました。8歳の時、日本から初めて子供用のチェロが輸入され、それからは両方が勉強し、10歳でコンクールのチェロ部門で優勝したので、それを機に母が、兄と私をマドリッドのソフィア王妃音楽院で勉強させるため、ヨーロッパに移住しました。その時の先生がモニゲッティ先生で、彼についてパーゼル音楽院に移りました。01年の卒業後、ゲリングス先生を知り、彼に習うために入ったベルリン音楽院も今年卒業しました。偶然2人ともロストロポヴィチの弟子で、私にとっては、最も影響を受けた音楽家です。私のキャリアは、用意された敷石の上を歩くように、1秒も無駄にせずここまで来られたのです」

「10月に日本へ行きますが、2年前、今の事務所に入った時、まず『日本に行きたい』

と提案し、去年11月に実現した初来日が今回のツアーに結びついたのです。私は日本人の、他人を尊重する文化が大好きで、日本語が話せないのが残念ですが、音楽を言語のように媒介として、皆さんとコミュニケーションしたいです。」

「前から『こんなレーベルからCDを出せたらいいな』と思っていたので、事務所にアプローチしてもらおう頼みましたが、無理と決めつけられ、せめてコンサートに招待して、と頼んだら契約が決まり、夢のようです」

「私の中の半分のロシアの血が騒ぐチャイコフスキー、そして母の故郷フランスのサン＝サーンス、最後に私の祖国のアルゼンチン人ヒナステラで、私という人間を表現できていると思います」

「今回の音楽祭は、50年前にメニューインが友達の前で演奏したのが始まりですが、私は3年前に初参加しました。他の音楽祭と違って長期間続くので維持も難しいと思いますが、若い世代の音楽家にもチャンスが与えられるので貴重な存在だと思いい、来年も参加します。ちょうどパーゼル近郊のオルスベルグに家を買ったので、私もソルスベルグ(彼女の名前からかかっている)と名付けた音楽祭を毎年6月に開催します。是非いらして下さい」

スイスのグシュタートで行われたメニューイン音楽祭でチャイコフスキー「ロココ風の主題による変奏曲」を披露したソル・ガベッタ。インタヴューはその翌日(8月26日)に同地で行われた。「ロココ風の主題による変奏曲」のほか、サン＝サーンスのコンチェルトなどを収めたデビュー・アルバムもBMGクラシックスからリリースされる(9月20日発売予定)。今秋の日本公演の予定は次の通り。①(日時)10月6日18時45分・7日16時(会場)愛知県芸術劇場(共演)広上淳一指揮名古屋フィル(曲目)ショスタコーヴィチ「チェロ協奏曲第1番」(問合せ)052-339-5666②(日時)11月12日15時(会場)いずみホール(共演)金聖響指揮関西フィル(曲目)エルガー「チェロ協奏曲」(問合せ)06-6944-1188③(日時)11月13日19時(会場)トッパンホール(共演)パトリツィア・コバチンスカヤ(vn)(問合せ)03-5840-2222④(日時)11月16日19時(会場)東京オペラシティ(共演)井上道義指揮東京フィル(曲目)ショスタコーヴィチ「チェロ協奏曲第1番」(問合せ)03-3574-0550

